

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺

壊れゆく 山門しばし
過ぎしひとびと 偲ぶおもいで
ながむれば



11月17日(土)・18日(日)は、報恩講です。
どうぞ本堂にご参詣ください。

山門と黒門通りのうつろい

総代 吉浦 明

両親・親類の懐古と感謝したお盆も過ぎ残暑も厳しい折り、そろそろ秋風がほしい時期になりました。本堂の落慶も十年が経過し残るは寺の顔である山門の再建が待ち遠しく感じられます。

台風シーズンになると老朽化が著しい姿が心配になります。それにしても、良く耐えています。

再建の推進にあたり、私の浄慶寺との関わりと昔の周辺の状況を記憶をたどりながら記してみます。

最初のご縁は、私の曾祖父である伊崎の正乗院十世住職が昭和五年に当寺にお墓を建てた事に始まり、九十年近くお世話になっています。

私自身が、お寺に足を運んだのは祖父の葬式に参列したのが初めてです。昭和四十五年の事です。

当時も勿論ですが、山門の前面は黒門川が大濠公園から水路で伊崎浜に注がれていました。

私も伊崎に住んでいたので通学路として、毎日登下校していました。川は干満の差によって水量も変化し、ボラやサヨリ等が泳いでいるのを眺めていました。

また、鰻も住んでいて、潮が引いた時は、近所の人が川底に降りたって掴まえていた思い出があります。

又、対岸の家に友達もおり、よく回り道して遊びに行った記憶もあります。

この通り、周辺はお寺も多く、特別お寺を気にした記憶はありません。

今は、「よかとピア」を機に、黒門川も暗渠になり、交通量も多く、山門が出来ると更に目をひくでしょう。

昭和初期の黒門川



体験談

東日本大震災に想う

浄慶寺住職

大塚 展彦

「なぜ、私が生き残ったのか？」という思いが、時が経つほどに「なぜ、私が生き残ってしまったのか？」と自身を責めるようになってしまう。東北大震災で親族をはじめ縁のある方を亡くした方の苦しみがある。「小学校に孫を連れて避難しました。あんなに津波がすぐに来るとは思わなかった。そして、決して離してはいけない手を、私は離してしまいました。」「行ってらっしゃい」と言って子どもを、夫を、妻を、送り出して、そのままお別れとなった人も無数にある。

岩手県陸前高田市は、町全体が津波によって壊滅した。そこにあった真宗大谷派本称寺は、ご住職をはじめご家族4名が津波によって亡くなった。当時、副住職だった現在のご住職は、奥様を亡くされた。そのご住職からお聞きしたお話が忘れられない。

『津波で家族を亡くした時、なぜ私だけが生き残ってしまったのか？そんな考えばかりをしていました。妻との間に授かった子どもが2人。子ども達の為にも、私が生きていかなくはという思いもありましたが、なぜ父でなく私が、母でなく私が、妻でなく私が、妻は沢山の方を避難所へ連れていく途中で津波に襲われました。私でなく妻が生き残っていたら、これからも私より多くの方々を支えられるのではないのか？なぜ、私が生き残ってしまったのか？

しかしですね、ある時に、門徒の方からこう言われたのです。「あなたが生きていてくれてよかった」と言って下さったのです。なんでもない一言です。震災後に、恐らく同じ言葉をかけて下さった方は他にもいたのだと思います。しかし、その言葉が、いつかはおぼえていませませんが、心の中に届いた時があったのです。その時、その言葉が妻や父母が私に「あなたは生き残ってほしい」と言っているように聞こえたのです』と、ご住職は話されました。

震災当時、私は、真宗大谷派仙台教区(岩手県・宮城県・福島県を管轄とする)で勤務していた。その中で、津波によって全壊した寺院とそのご門徒。東京電力福島第一原子力発電所の事故によって帰還できなくなった寺院とそのご門徒の方々から「なぜ、私が生き残ったのか？」というお言葉を幾度もお聞きした。

しかし、そのお言葉の中に、「あなたは生き残ってほしい」という仏と成られた方からの願いを聞く事の大切さは、被災地だけではなく、この福岡に暮らす私たちにも通じる共通なものなのではないでしょうか。



◇ご命日の集いへのお誘い

毎月28日13時30分から本堂にて開催しております。

親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に門徒が集い正信偈を、あげております。

また、写経なども行い、お茶を飲みながらの語らいの時も過ごしております。

ご都合の付く方は、ぜひ気軽に参加してみてください。

真宗（大谷派・東本願寺）への導き

《第六回》

報恩講について



「報恩講」は、宗祖・親鸞聖人のご命日(11月28日)を中心にして行われる仏事であります。親鸞聖人の遺徳をしのび、共に仏法を聞いて語り合う集いであり、親鸞聖人の教えに遇って、人として生まれた意義と生きる喜びを、見だし、生きていくなかで受けてきたたくさんの「恩」に「報いる」ことに思いを馳せるひとときでもあります。

この報恩講について、蓮如上人が御文で述べられていることがあります。

御俗姓 御文より抜粋

(前文略)

十一月二十八日は、祖師聖人遷化の御正忌として、毎年をいわず、親疎をきらわず、古今の行者、この御正忌を存知せざる輩あるべからず。慈によりて、当流にその名をかけ、その信心を獲得したらん行者、この御正忌をもって、感謝の志をはこぼざらん行者においては、誠にもって、木石にひとしからんものなり。しかるあいだ、かの御恩徳のふかきことは、迷慮八万の頂、蒼瞑三千の底にこえすぎたり。報ぜざるはあるべからず、謝せずはあるべからざる者か。此の故に、毎年の例時として、一七か日のあいだ、形のごとく報恩謝徳のために、無二の勤行をいたすところなり。

(中略)

この砌において仏法の信・不信をあいたずね、これを聴聞して、まことの信心を決定すべくんば、真実真実、聖人報謝の懇志に相叶うべき者なり。哀れなるかな、それ聖人の御往生は、年忌とおくへだたりて、すでに一百余歳の星霜を送るといへども、御遺訓ますますさかんにして、教行信証の名義、いまに眼前にさえぎり、人口にのこれり、貴とむべし、信ずべし。

(中略)

此の一七か日報恩講中において、他力本願のことわりをねんごろにききひらきて、専修一向の念仏行者にならんにいたりては、まことに、今月聖人の御正日の素意に相叶うべし。これしかしながら、真実真実、報恩謝徳の御仏事となりぬべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。

文明九年十一月記す 蓮如上人

御俗姓 御文(真宗聖典851頁)より抜粋

※迷慮⇒須弥山のこと。蒼瞑⇒あおいうなばら。

御俗姓御文⇒宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講に際して示された教語。

◇墓地・納骨堂について

墓地及び納骨堂は、現在空きがありますので、周りの方で必要な方がおられましたら、浄慶寺を、ご案内して下さい。(住職携帯電話:090-2318-3268)



行事予定

- 報恩講準備(おみがき) 11月14日(水)
10時から本堂にて
(報恩講を前に本堂の仏具などを磨く奉仕活動です)
- 報恩講 11月17日(土)・18日(日)
両日とも13時30分から
- 年末本堂開放 12月27日(木)~30日(日)
- 修正会 平成31年1月6日(日)
13時30分から

文艺欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

わたくしに母が遺した固結び
言い訳を探すと雨になる女
くまモンに和みはずんだ義援金
若者がひよいと手伝う車椅子

川柳

山口由利子

坊守のついで

こんにちは、坊守の大塚麗です。私は現在、久留米市広川にある「九州大谷短期大学」の学生です。現在2年生となりました。「九州大谷短期大学」とは、皆さん聞きなれない大学だと思いますが、1970年に東本願寺が九州の地に、親鸞聖人の教えを建学の精神とする大学として設立されました。表現学科・幼児教育学科・福祉学科・仏教学科があります。仏教学科の定員数は10名で、私の同期は9名です。年齢層も幅広く、65歳の方から高校卒業したばかりの18歳の方もいます。出身地も九州以外の方も多く、また前職業も様々で、大変刺激あふれる仲間たちと日々学んでいます。一年生の時は仏教の基礎(親鸞聖人のご生涯・釈尊のご生涯・漢文で聖教を読むなど)を学び、2年生では講義の内容も、自分で課題を見つけレポートを書き、その内容について意見交換をするといった、自主的な学習が多くなり、より学びの内容が深くなっています。入学したばかりは、勉強が理解できるか、他の学生と馴染めるかどうかなど、短大に通う事が不安でしたが、今は短大との往復の生活にも慣れ、とても充実しています。大谷短大に入学し、勉強できたことを感謝しています。



山門懇志の現状報告

猛暑日の続いた8月が過ぎ、少しはしのぎ易い9月になりました。

昨年(2018年)の門徒総会に於きまして、皆様に山門懇志にご賛同頂きまして丁度1年になります。

本年の1月よりご懇志の振込を、お願いしております。

早速、多くの方々にご協力頂きまして有難う御座います。

心より、お礼を申し上げます。

現在のご懇志の進行状況についてご報告を致します。

門徒数の40%弱の方々のご賛同を頂けて居りません。

今の状況では、山門に係わる事業計画のいずれかの部分が完成出来ないと思われます。

我々の浄慶寺は、今後とも門徒全員で守って行くことが門徒の責務であり、今回の計画は、是非、完成させる事が必要と思われます。

市内では、門徒数の少ないお寺ですが、皆様のご協力を頂き自慢の出来る浄慶寺にしていこうではありませんか。

(総代 中村 皓二)



編集後記

やっと涼しさを感じる季節になってきました。暑いと思っていた季節を振り返ると幸せを感じる今日此の頃ではないでしょうか。その気持ちを何かに振り向けられては……

じょうけい 第4号
 <発行>
 真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
 浄慶寺門徒会 川嶋正實
 〒810-0063
 福岡市中央区唐人町3-10-49
 <編集>
 浄慶寺寺報編集担当 塩川大一